

「温故」第十五号

他見無用

記録抜書

八冊之内 式

庄屋

吉田長左衛門

温故十五号をお届けします。

今回は須佐浦を中心にした事件等の記録を写した記録抜粋八冊之内貳冊を紹介します。残り七冊が早く出現すればよいのですが、現在のところ不明です。

この記録抜書は江戸時代後期の明和四年（一七六七）から文化十一年（一八一四）まで、四十八年間の記録を一冊にまとめたものです。内容は公儀から沙汰があったことに対し、地下で色々調査したことを庄屋から大庄屋、公儀へ報告するものや鍋・釜の他国物を須佐港に揚げず須佐の物を買うよう指示していること、明和五年（一七六八）の須佐浦出火焼失届等、当時の須佐浦の様子が見えるものから町の歴史に関するものまで、幅広い分野のものが集録されています。

十四号の反省を踏まえ、原文を大きくし余白に釈文例を入れました。ご意見ご教示をいただければ幸いです。

なお、解説にご協力いただきました東京須佐会、須佐古文書を読む会の皆様に厚く御礼申し上げます。

二〇〇一年六月

須佐町郷土史研究会

凡例

漢字は可能な限り原文を記載する。但し、異体字や古体字・ウ・ブにない字は現行の字に改め、あきらかな誤字は釈文例において訂正した。
者江茂而与等の助詞は小文字を使用するが、ワープロでは右寄せ機能がなかったため左寄せとした。
闕字は一字あけとした。
判読不能、虫食い等については、とすが、あきらかな場合は差のよつにした。また、符と封の取り扱いは後日の調査に期待することにした。
便宜上、返り点及び読点を付すが、誤記の場合は訂正をお願いす

資料提供

記録抜書八冊之内式（須佐町 大谷英祐氏）

参考文献

用字用語古文書の読み方（柏書房）
実例古文書判読入門（名著出版）
実例古文書判読演習（名著出版）

表紙

他見無用

記録抜書

八冊之内 弐

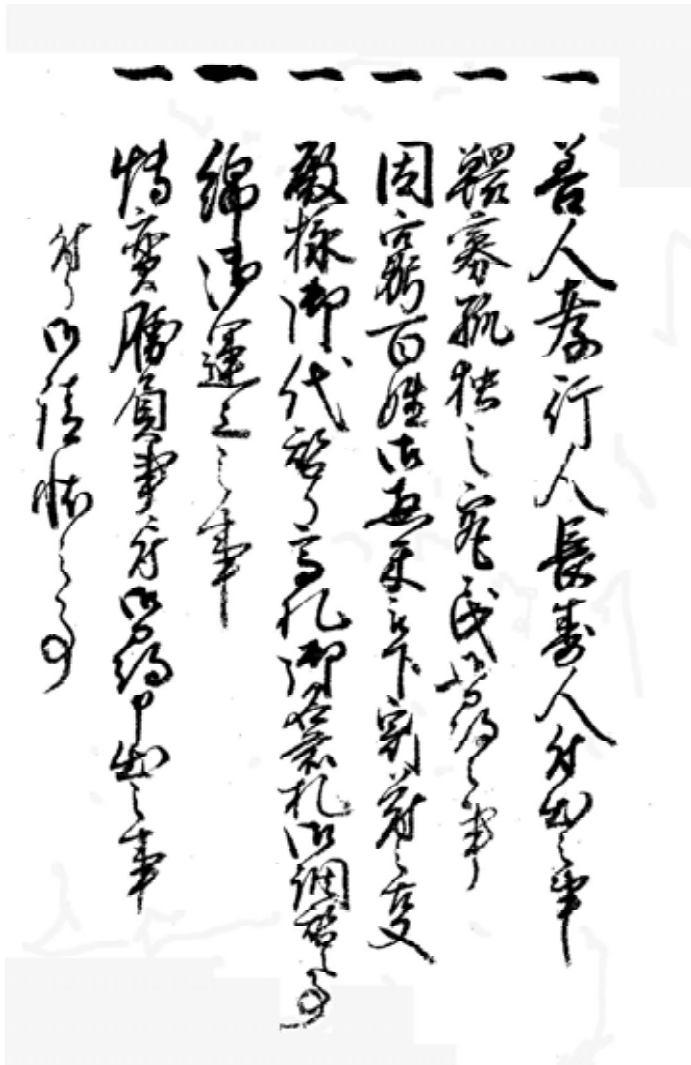
庄屋

吉田長左衛門

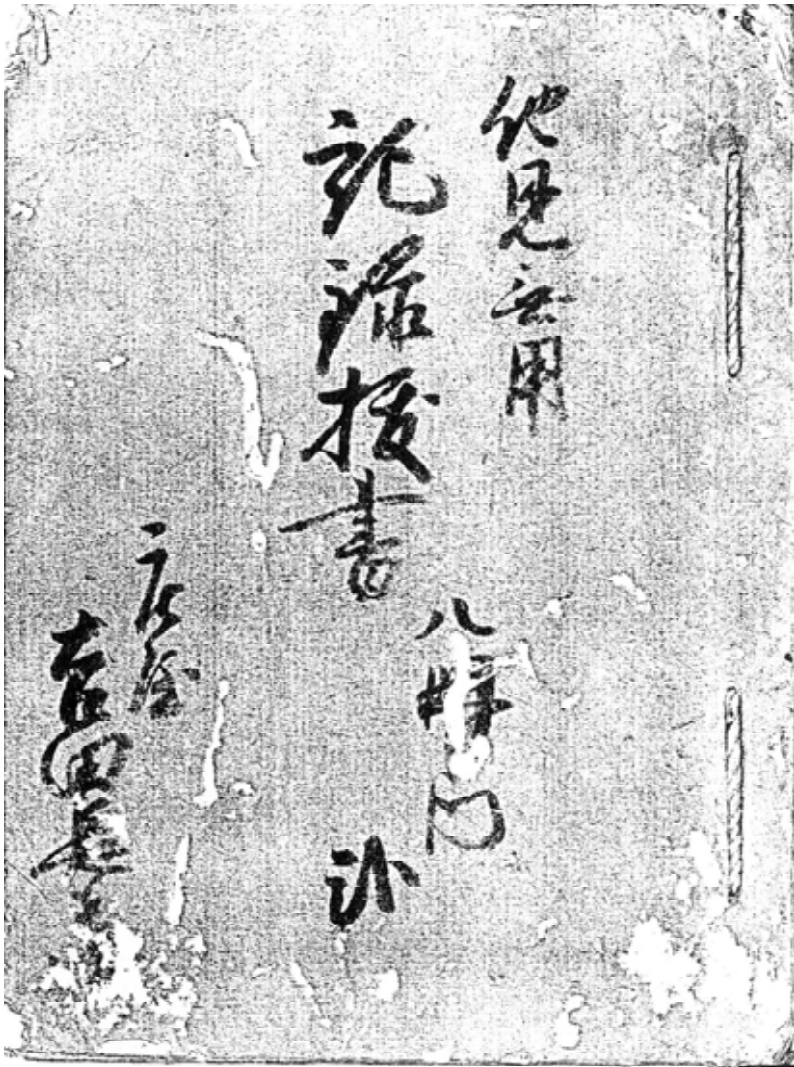
読解文

温故「第十五号は上段に文書の白黒写真を掲出し、下段に読解文を印刷しています。文書の写
真はテータ量が大きく平ムムッジには収まり切れませんでしたので読解文のみを復刻します。

1頁



- 一、善人孝行人長寿人付出之事、
- 一、鰥寡孤独之究民御尋之事、窮民
- 一、因困窮百姓御恵米被下割符之事、
- 一、殿様御代替り高札御名前札御調替之事、
- 一、綿御運上之事、
- 一、博奕勝負事二付、御尋申出之事、
- 一、付り御請状之事、



【2頁】

- 一、髪付煉御尋申出之事、
- 一、職人水役札之事、
- 一、式百石積以上之船御用申来申出之事、
- 一、綿実菜種作り立員数申出之事、
- 一、御城米船正墨附差出候様御沙汰之事、
- 一、紺屋職仕候者申出之事、

【3頁】

- 一、銀山御手代通路之節用意之事、
- 一、遠流人其外罪人有之候ハ、可申出御沙汰之事、
- 一、歸嶋人之事、
- 一、住居替出切手形之事、
- 一、身持不_レ宜_二行、村退被_二仰付_一候事、
- 一、他所病人継送り願出送出し之事、
- 一、他所人當浦_二而病死取計_一之事、

【4頁】

- 一、當浦漁人難船御届之事、
- 一、明和五子年浦出火焼失届之事、
- 一、鍋釜入津被_二差留_一候事、
- 一、絞_レり油屋向受賣之者付出之事、

【5頁】

- 一、善人孝行人長_二壽_一之人付出之事、
- 一、右御沙汰有_レ之候ハ、下地得与吟味仕、有_レ之候ハ、其趣委敷書立可_二申上_一事、尚又可_二申上_一程之者無_レ之節者、其段小杉豎紙申上候事、
- 一、申上候事、
- 一、孝行人善人有_レ之候ハ、申出候様御沙汰奉_レ畏候、地下讚談仕候所、只今_二而_一申出仕候程之人柄、私存内_二無_一御座候間、此段宜様

【6頁】

- 一、被_二仰上_一可_レ被_レ下候、
 - 一、八十歳以上之老人之儀、是又讚談仕候所、私存内_二八巻_一人茂無_二御座_一候、此段宜被_二仰上_一可_レ被_レ下候、以上、
- 寅二月

大庄屋

大谷勘左衛門殿

右之通_二ア、書状相添差出_一也、

- 一、善人孝行人之儀、心當有_レ之節ハ得与

【7頁】

- 一、其行成を考委敷書出可_レ申事、善人有_レ之時ハ身持悪敷人モ書出候様御沙汰有_レ之事也、能々相心得可_二讚談_一事也、何卒善人孝人地下_二相増候様有_レ之度事也、

【8頁】

- 一、安永式巳七月朔日、當浦兄権之丞弟弥三郎、右両人一居_二而老母_一老人有_レ之、中風相煩、数年居さり
- 一、而、兄弟之者至而孝行仕候_二付、浦庄屋七郎右衛門より以_二書附_一申出候_二付、右両人郡御奉行様御出郡之節、
- 一、吉部_二被_二召出_一、御直_二御褒_一又_二被_レ遊、米老俵、四斗被_二下置_一、其後安永六酉ノ二月、御目附様御通之節、御沙汰相成候_二付、右弥三郎儀、老母数年長病_一而身柄不自由_一候所、兄権之丞_二兄弟共神妙_一ニ養育仕、一躰貞心_二而孝行_一を尽し、其以後老母果、只今権之丞病身_二罷成候所、是又懇_二介抱仕、神妙_一之者之由相聞候_二付、為_二御褒美_一米式俵被_レ下候事、尤四月四日、御代官様宗門御究御廻郡之節、江崎教専寺合弥三郎被_二召_一、_二被_レ下置_一候事、

【9頁】

一、庄屋庄左衛門代、長壽之人御尋二付、左之通申出候事、
浦甚右衛門母千代八十二、鶴松母かめ八十二、長四郎八十四、
三槌祖母かや八十四、嘉平母八十、万之助母八十二、
右之通小杉豎紙を以申出仕候事、

【10頁】

鰥寡孤独之究民御尋之事、

一、右之御沙汰有之候ハ、下地随分吟味仕、
之所可申上之事也、

小杉豎紙

申上候事、

鰥寡孤独之究民御座候ハ、申出仕候様ニ
御沙汰相成、奉得其旨、讚談仕候所、私存内
只今ニ而ハ左様之者無御座候二付、此段宜様
被仰上可被下候、以上、

【11頁】

須佐浦庄屋

六右衛門 印

丑十月五日

大庄屋

大谷勘左衛門殿

一筆致啓上候、弥御堅勝被成御勤、珍重奉存候、
然者鰥寡孤独之究民取救ひ之儀一付、
委敷御廻文之趣奉得其意、下地段々
讚談仕候所、只今ニ而ハ格別之者無
御座候趣、御座候、尤而二人モ難渋仕候者
御座候得者、下地ニおいて色々申合候而

【12頁】

取救ひモ仕見、田屋元よりモ被附御氣候儀ニ

有之、只今迄ハつか取續候一付、先
御上江申出モ不仕候、右二付無御座候段、書付
差出候間、宜様御取計可被下候、奉頼候、
右為可被得貴意、如此御座候、恐惶謹言、
月日

浦庄屋

六右衛門 判

大庄屋

大谷勘左衛門様

右躰之者ハ被仰出無之共、地下中随分

【13頁】

氣を附取救之手段可仕事勿論也、難渋
者有之候ハ、其親類歟手筋之者有之ハ
致讚談取續候様ニ可仕事、其上ハ地下より
救ひ可申、猶又御田屋江茂申出候ハ、御慈悲
可有之事也、弥手段無之人柄ハ
大公儀江モ願可出事也、
願出可仕候節者

【14頁】

畔頭何右衛門組

何かし

右之者何十何才一罷成候所、妻子兄弟・
親類等モ無之、田畠等モ所持不仕、老極ニ
罷成、身柄病身ニ而働茂不仕、渡世
難渋仕居候、漸地下之情を以、且々日を
送り申候事、
右之趣を以書出可仕候事、

【15頁】

困窮百姓御恵米被下割符之事、

一、享和二年戌十一月、萩大玉新右衛門より米三千
石公儀江差上申候分、御領分困窮之御百姓
中江立被遣候一付、割符人別仕出之事、

庄屋中吉部被召出被仰渡有之、下地之百姓委敷致讚談、夫々付立致割符候事、

米六石斗四升、三原野頭須佐、難儀者人別七合五勺、極難志升、極々難當り見合候事、

↑6頁

凡右之趣御沙汰之所、三原野頭相談而當浦江、
志石志斗相渡候二付、夫を以人別江致割符候、
須佐浦畔頭三人ノ組下而八拾五人、内上四人、
中廿一人、十六拾人、大浦而五拾五人付立割符、

帳面上書

一 享和貳年
須佐村困窮之御百姓中江御惠米人別仕出帳
戌十一月 浦庄屋 庄左衛門存内

↑7頁

浦庄屋 庄左衛門存内

畔頭 太郎右衛門組

一、米何升何合 何かし
家子何人

一、同何升 何かし
家子何人

一、米何升 何かし
畔頭 七右衛門組
家子何人

以上

右此度、厚幸
御思召を以私存内困窮者委敷詮義仕、
前書之通申出候二付、此辻を以被立遣候様二
御沙汰被成可被下候、以上、

↑8頁

戌十二月

浦庄屋

庄左衛門 印

表紙江紙数何枚ト卷、封印之事、
切符案書、半紙横折六ツ切二

何村庄屋何かし存内

畔頭何右衛門組
何某

一、米何升何合

但拂切二被立下候事、
以上

右之通二、三村一所二、飛脚吉部差出候事、/
大庄屋書状差遣入

↑9頁

殿様御代替り高札場御名前札御調替之事、

一、殿様御代替り之節、町浦御高札場之

御名前有之之札御調替二付、勘場より御沙汰

有之、三原申談而町浦式枚一所二浦より差出入
出来之上三原より取遣候事、

一筆致啓上候、然者今度
御名前之御添札御調替被仰付候由、右二付

20頁

御勘場江差出候様との御事、奉得其旨候、

今日町浦二御座候御添札式枚差出申候、
御受取被成可被下候、恐惶謹言、

文化六巳年、御調替也、
月日

庄屋

田村平八

同 津守平左衛門

浦庄屋

六右衛門
大庄屋
椿儀左衛門様

【21頁】

綿御運上之事、
附り 口封 送り符御改之事、

一、綿御運上銀取立之事、
右御運上取帳、毎年九月、吉部より封印
閉二~~ア~~来候、

文化五年分
綿布御運上銀取帳
辰九月ヨリ須佐

綿吉本一符御運上銀三匁宛取立之事、

【22頁】

但繰わた老本六貫目、打綿・しのわた

老本五貫四百目也、

右取立、毎月末、吉部江以三飛脚上納之事、

九月五日

濱崎屋

一、繰綿四本

武兵衛

同日

見嶋屋

一、同 拾三本

平左衛門

同日

雲州田儀ノ

一、打綿式貫五百目

藏

以上拾七本式貫五百目

此運上銀五拾式匁三分壹厘六毛

上納、今日差出申候、以上、

【23頁】

何月何日

右之通記候而書状相應ニ相認差出入
割印入候而御通ひ歸ル也、

右口符、通り符兼而御渡置ニ符、別段ニ帳面
調置受拂可~~レ~~致事、口符老本ニ式枚宛、

符力
通り封望ニ依て遣入

口封、通り符共ニ拂切之節八吉部大庄屋
元江申遣受ニ取之也、

【24頁】

右改ト~~レ~~手子衆每事被~~レ~~致~~ニ~~廻在ニ候、其節八
手紙江請拂を付立相渡可~~レ~~申事、

半紙手紙ニ認
覚

一、口符何拾枚
一、通符何拾枚

右何月御改之節残り符、

一、口符何拾枚

何月何日吉部より受取、

以上口符何拾枚

通符何枚

【25頁】

何月何日 内

一、繰綿八本

三嶋屋平左衛門

口符拾六枚

通符 式枚

何月何日

一、打わた式貫五百目

何浦何かし

通り符何枚

以上口符何枚

通符何枚

残口符何拾枚

何月何日

通り符何枚

右何月受ニ相成申候、

【26頁】

右之通御座候、以上、

巳月日

浦庄屋

六右衛門

右之通ニ書附相渡入也、
上領平左衛門様

一、右綿御運上取立仕候ニ對し、每暮從ニ
吉部ニ銀拾三匁五分宛被下之候事、
十一月廿九日

【27頁】

一、津留御打廻り衆、今日當浦ニおいて操わた吉本
見咎相成、詮義之上拔荷ニ相違無之付、庄屋
元預り置候付、萩御新藏迄送り出被ニ仰付ニ候迄
次第、左之通、
覚

一、繰わた吉本 但正ニ六貫目入
右於ニ當浦ニ持運ひ候旨、被ニ成ニ御見咎ニ候所、
口符、通り符等無之付、御詮義被ニ仰付ニ候内、
荷主不ニ申逃去候而行方相分不ニ申ニ付、
拔荷ニ相違無ニ御座ニ候、追荷ニ相成一ツ書

【28頁】

之辻、私方ニ御預ケ方相成、慥ニ預り置申候、ノ追而何分之御
沙汰有之次第差出可ニ申候、ノ為ニ後日ニ如此御座候、以上
辰十一月廿九日
吉田源左衛門

繰綿金札相調、

御用物
繰綿吉本
萩御新藏櫛方 須佐浦庄屋
御役人中様 吉田源左衛門

御打廻り當ル
右之通預り置候所、萩新藏櫛方ニ送り出候様ノ御沙汰相成候付、

【29頁】

送り出候所、如何様ニ差出可ニ然哉ノ之段、大庄屋元及ニ乞合
候所、御大庄元迄差出候様ノ申来候付、吉部迄差送候、尤吉部よ
リ萩送り出候様、ノ於ニ彼方ニ取計可ニ申候通申来候付、頼状相添
吉部ニ差出候事、
付リ 送り出 吉部より御沙汰相成候、沙汰状此内へ以上、

博奕 勝負事ニ付、御尋申出之事、

一、博奕其外諸勝負之事ニ付、御沙汰有之候節、
申出之事、
小杉豎紙

博奕其外諸勝負取悩候者有之候ハ、
有無共ニ甲出仕候様ニ之御沙汰奉ニ承知ニ候、
須佐浦私存内ニ者左様之者一切無ニ御座ニ候、
以ニ此辻ニ宜様御沙汰被ニ成可ニ被下候、以上、

【30頁】

巳月日
大庄屋
椿弥右衛門殿
須佐浦庄屋
六右衛門 印

一、寛政十年十二月廿一日申出之写、
申上候事、

博奕其外不儀之諸勝負之儀、古来より
重キ御法度ニ而有之候所、改而當年より
嚴重ニ御制道被ニ仰付、其旨を以奉ニ得ニ
御授之通、地下沙汰仕候所、月末々々ニ八

【31頁】

札普を以、順々五人組相内より博奕其外
諸勝負事仕者者人モ無之段、毎月申出

候一付聞届仕候、其上夜中一八立番等致させ氣を付候所、一向諸勝負事仕候者須佐浦一者無御座候間、此辻を以御沙汰被成可被下候、以上、

庄屋年寄 判
大庄屋 齋川

戌十二月二日被仰出候御書附写、

博奕之儀ハ統御制禁二而、毎々手堅其沙汰被仰付一事候、然所近年間々博奕

【32頁】

翫ひ候者有之様一相聞、甚不謂儀一候一付、
嚴敷御詮議被仰付候、若不心得之者有之ハ
訖度御咎被仰付候条、随分相慎可申旨候事、
付り宝引其外懸勝負、縱令小兒之
翫ひ二而も成立、風俗不直其基一候、
兼而右躰之儀迄手堅被仰付候、愈以
相守候様、大人ハ銘々其心得可仕候、
小兒之輩之儀ハ親 兎其外目立候
者、嚴敷相示し可被申候事、

【33頁】

右之通御書附を以被仰出候、博奕之儀者
一統御制禁一付、兼而嚴敷被仰出候一付、毎度
其沙汰仕候處二近頃間々博奕仕候様風聞も
有之候一付、随分氣を付聞合候得共、手掛り
之筋茂無之候、此上博奕翫ひ候者有之候而ハ
沙汰筋不行届、役座之越度一相成儀一候ハ
随分心懸見聞候辻を以、表方御届可仕候間、
五人組せりニア右躰之儀不仕候様、制道

【34頁】

可仕候、万一不心得之者有之博奕翫ひ候者
有之候ハ、密二庄屋元可申出候、隠し置脇

より相知候時ハ五人組之迷惑二可相成一候、且又
小兒之寶引、是又風俗之不直基一候得者、
以来相止候様一親 兎より得与可申聞候、勿論
寶引宿仕候者於有之ハ早速表方御届
可仕候間、旁不心得無之様一家内并下人
等江茂可被申聞候事、

【35頁】

戌十二月

右之通御沙汰一付、御百姓中不残請状申
付候事、

御請状之事、

一、博奕之儀一付、御書附之趣を以手堅被仰渡、
具承知仕候、是迄茂右躰之取悩仕候者
無御座候得共、猶又急度申合、五人組せり二
其譚談可仕候、万一不心得之者有之

【36頁】

博奕翫候者有之候ハ、御届可仕候、隠置
脇より相知申候時ハ五人組如何躰一毛
御咎可被仰付候、且又小兒之寶引一向
相止させ可申候、是又相背候時ハ親々
之迷惑一被仰付、如何躰一毛御咎可被
仰付候、為後日御請状仕印形相調
差上申候所、如件、
安永七戌十二月六日

【37頁】

浦百姓名前不残三段書ニア、銘々
印判居候事、

一、博奕的至而御制禁、度々被仰出有之、
地下人よりも御受状有之、文言略之、

【38頁】

髪付煉御尋申出之事、

一、右御尋之御沙汰有之候得共、當浦二八巻人毛
無御座候二付、左之通申出仕候事、

小杉

申上候事、

髪付煉之者、是迄之参り懸り之儀、
申出仕候様御沙汰相成、奉得其旨讚談
仕候所、私存内二者髪付煉之者老人も
無御座候間、此辻を以宜御沙汰被成可被下候、以上、

【39頁】

寅二月十日

大庄屋

大谷勘左衛門殿

右之通二書状相添差出入

須佐浦庄屋

六右衛門 印

【40頁】

職人水役札之事、

一、寛政式戌年御書出之内、諸職人在々より秋江
出致所作候儀、勝手次第被仰付、萩滞留三十日二
及ひ候ものハ巻ケ月一日宛、御木屋方二而水役
被召仕候、尤御才判二而水役銀納候ものハ一ヶ月
半日宛之水役被仰付候、

小杉

申上候事、

職人水役札所持不仕者有無申出候様

【41頁】

御沙汰相成、早速讚談仕候所、私存内二八
左様之者一向無御座候、此段宜様御取計
被成可被下候、以上、

丑ノ五月五日

須佐浦庄屋

六右衛門 印

大庄屋

椿弥右衛門殿

當浦二八水役札受候細工人無之、寛政三年頃、浦百姓
安左衛門三男桶屋久右衛門水役札所持仕候所、家内之
下人江養子二相成、右札返上いたし候事、

【42頁】

式百石積以上之船御用申来申出之事、

一、右式百石以上之船所持之分、申出候様御沙汰相成候事、

小杉

申上候事、

式百石積以上之廻船御用二付、詮議仕
委細書出仕候様二之御沙汰、奉得其旨候、
須佐浦私存内二八左様之廻船一向無御座候、
此辻を以宜被仰上可被下候、以上、

子九月廿八日

須佐浦庄屋

六右衛門 印

【43頁】

大庄屋

椿弥右衛門殿

右之通相認、書状相添差出入

【44頁】

綿実 粟種作り立員数申出之事、

附り賣買之儀付立差出候帳面之事、

一、菜種 綿実作り立員数并賣買之所申出候様、

度々御沙汰有之、

小杉

申上候事、
綿実、菜種作り立候者、石数有無共二
申出候様御沙汰相成、奉_レ得_二其旨_一早速
讚談仕候所、私存内_二者田畠無_二御座_一一付、

【45頁】

作り立候菜種、綿実一向無_二御座_一候、此辻を以
宜様御沙汰被_レ成可_レ被_レ下候、以上、

月日

須佐浦庄屋

六右衛門

大庄屋

椿儀左衛門殿

一、寛政九丁巳七月、大公儀より油高直諸人難儀
一付、段々御吟味有_レ之、菜種餘分作り立致候様、
尚又賣買之儀御極有_レ之、長州・防州・近国・大坂
登せ差止、攝州兵庫新問屋會拂候様二

【46頁】

御沙汰有_レ之、

一、御勘場より賣買之儀委敷付立差出候様二_一御沙汰有_レ之、半紙閉_二

之、

上書 菜種并種油請拂仕出帳

年号

月日 須佐浦庄屋庄左衛門

一、菜種何程

須佐浦何かし

但弥富村、上小川村より少々宛

持参之分、現錢引か會得

仕候而、萩濱崎何かし_一申仁賣拂仕候、

一、何ほと

畔頭何かし組何かし

但何村二而何かしより買得仕、何国何かし會拂仕候、

【47頁】

一、種油何斗 畔頭何かし組中買何かし
但田万何かしより買得仕、小買_二在候_一、
一、綿実油何程 須佐浦問屋何かし
但大坂何や何かしより買得仕、當浦
何かし會拂仕候、

一、此仁萩より油取越 須佐浦何かし
小賣_二在候_一、

以上

右之通御座候、以上、

月日

須佐浦庄屋

何かし

同年寄

何かし

大庄屋

何かし殿

【48頁】

御城米船正墨附差出候様御沙汰之節之事、

一、右正墨附有_レ之候ハ、差出候様勘場より御沙汰
有_レ之候節、以_二書状_一申出仕候事、

手紙一認

一筆致_二啓上_一候、弥御堅勝被_レ成_二御所勤_一珍重

奉_レ存候、然者御城米船并長崎御廻米

船之正墨附有_レ之候ハ、早々差出候様二

被_二仰下_一承知仕候、然_レ所當所之儀者

【49頁】

御城米船出帆仕候得者、早晚之通、即日

以_二飛脚_一江崎御番所江御届申上并正墨附

差出候儀_二御座候間_一、私方_二无_二御座_一候、

此段宜御申上可_レ被_レ下候、右為_レ可_レ得_二責意_一如此

御座候、恐惶謹言、

八月三日

浦庄屋

六右衛門 判

大庄屋

大谷勘左衛門様

【50頁】

紺屋職仕候者申出之事、

一、紺屋職仕候者、名前書出候様御沙汰有之、左之通、

小杉

申上候事、

紺屋職仕候者、名前書出候様御沙汰相成承知仕候、私支配之内一紺屋職仕候者

無御座候、尤旦那家来之内、用物染方

紺屋職被申付候者御座候、此分私手附

【51頁】

一而無御座候一付、書付不仕候間、此辻を以宜御沙汰被成可被下候、以上、

丑六月

須佐浦庄屋

七郎右衛門 印

大庄屋

木村四兵衛殿

【52頁】

銀山御手代通路之節用意之事、

一、銀山御陣屋御手代衆通路之節先触有之、其用意勿論之事、公儀御役人之儀、随分

入念可申事、早速御土居江御届可申上候事、

一、明和七寅二月、田中郡吉殿通行之節、須佐

泊り之事、

覚

一、御銀壹箱

人足式人

一、駕籠

人足式人

【53頁】

一、荷軽尻

吉足

右者會田伊右衛門御代官所御廻米、於長州角嶋

及破船、我等為見分罷越候所、場所吟味

相片付、明二日、角嶋出立、石州大森陣屋へ

罷歸候間、書面之人馬宿々村々無滞様

可差出候、尤川越、船渡等有之場所、

前宿々より致通達差支無之様可取計候、

此先触早々順達留りより大森御役所

可指出候、以上、

【54頁】

會田伊右衛門手代

田中郡吉

長州豊浦郡角嶋より石州大森迄海辺通り

右宿々村々

役人中

泊り附

二月二日

河原

同三日

萩

同四日

須佐

同五日

高津

同六日

濱田

【55頁】

右之通泊り宿申付可給候、尤本文破船

乗組之者拾吉人召連候間、是其旨

相心得、宿差支無之様可被取計候、以上、

右御書来此付、三原、野頭江早速申遣、

両庄屋出張之事、

但野菜物、内夫等両村より出候事、

一筆致_二啓上_一候、然者石州大森御役人様御通路被_レ成、須佐_二而御止宿被_レ成候由、御先触を以今夜中御沙汰相成申候_二一_一付、御宿并

【56頁】

御賄方仕構_同仕候、別紙之通御先触写差出申候間、被_二仰上_一可_レ被_レ下候、右為_二御届_一如此御座候、恐惶謹言、

二月三日

三庄屋 判

大庄屋

守永吉左衛門様

一筆致_二啓上_一候、然者石州大森御役人様御通行被_レ成、明四日晚須佐_二而御止宿被_レ成候段、御先触相成申候_二一_一付、御宿并御賄方

【57頁】

仕構_同仕候、夫_二付大庄屋元江も御届申出候、右為_二御届_一如此御座候、恐惶謹言、

二月三日

三村庄屋 判

岡田善左衛門様 村手子也

田中郡吉様御宿

町人吉人

中間吉人

船頭舸子之者宿

江崎屋吉左衛門御宿拂言人前百文宛、御拂被_レ成候、

【58頁】

一、天下御役人通路諸人目銀間欠之儀者、勘場配當より相立候事、

献立

二月四日夕

鯛かさね

皿

鯛引作り
海草
にんじん

汁

和布
こかれ鯛
青み

平

煎酒
けん立花
わさび
雉子

飯

【59頁】

鉢肴 酢貝

同五日朝

風流

あわひ
のついで

汁

皮_牛房
ちしや
おろしめはる

御弁當煮染 ゆは

飯

次之分香の物 梅干
あわひ_牛房

【60頁】

一、右入用鯉海草わさひ味噌酢醬油薪和布主子・大根・うくいも白葱にんじん油ちしやゆはあわひ・ふり鯛・やなせせらか蠟燭した漬梅干茶請酒米吉斗五升壺合五勺半紙四帖細引壺本并五勺宿吉田利兵衛式刃吉左衛門式刃五分宇右衛門共二五拾三刃式分八厘七毛之辻、御客より出候分、引残り分大庄屋元より相立也、右廉々横帳一委敷相認、差出可_レ申事、

一、若無_レ據勘場江仕出不_二相成_一品八三村割合ニヌ

【61頁】

出銭之事、

一、右出足之後、以飛脚吉部大庄屋元御届
申出候事、文言見合之事、
村手子衆全同断、

【62頁】

遠流人其外罪人有之候者、可申出御沙汰之事、

一、右之御沙汰有之候者、地下得与致讚談有無
之趣可申出事、
小杉 申上候事、

遠流人其外罪人等有之候者、申出候様二
御沙汰相成、早速讚談仕候所、私存内二八
左様之者近來一切無御座候、此段宜様
御沙汰被成可被下候、以上、

【63頁】

丑三月廿九日

須佐浦庄屋

六右衛門 印

大庄屋

椿儀左衛門殿

右者當浦二右等之人無之付、右之通申出候也、
若讚談いたし有之時者、其子細を書付可申出事、
尤遠流人等之儀八御田屋より御手之入候もの候八
其所得与相考、万事伺候而麁相無之様二
取計可申事、且又親類より等致候もの八
親類得与及相談、御土居も伺ひ可然事也、
浦より申出候人者、稀一可有之事也、

【64頁】

歸嶋人之事、

一、安永八亥年、嶋幸左衛門見嶋より歸嶋被仰付、

覚

益越中様御家来
嶋幸左衛門

右之人御咎之筋有之、前廉嶋御貸被置
候所二此度依願歸嶋被仰付候、於萩表二
御引渡仕候様二この御奉書二而御座候得共、

【65頁】

依御願其御方江船便を以、直様御引渡仕候間、
人柄御受方相成候段、請取手形可被差越候、以上、
亥二月十二日

見嶋郡庄屋

山富喜左衛門 印

同

吉永五郎左衛門印

須佐浦御庄屋

吉田七郎右衛門殿

覚

益越中殿家来

嶋幸左衛門

右之仁咎之筋有之、前廉嶋借被差置

【66頁】

候所、此度歸嶋被申付候付、於萩表御引渡
被成候様二この御奉書二而御座候得共、此方より
依願便船を以、直様當浦被差越、人柄
無別条請取申候、仍而手形調進候所、
如件、

亥二月十五日

須佐浦庄屋

吉田七郎右衛門印

見嶋郡御庄屋

山富喜左衛門殿

同

吉永五郎左衛門殿

【67頁】

一、天明八年申四月八日、上小川梅木百姓九郎右衛門、大嶋より歸嶋被_レ仰付_二送來_レ候事、一筆致_二啓達_一候、然者此度御領分百姓

九郎右衛門、歸嶋御救免相成、今日、其御方送遣候間、着岸上陸相成候ハ、御引請之段可_レ被_二仰下_一候、為_レ其如此御座候、恐惶謹言、四月八日

文右衛門 判
御家名不_レ存御免
七郎右衛門様

【68頁】

御状致_二拜見_一候、然者此度須佐領百姓

九郎右衛門儀、歸嶋之御救免相成、今日、御送届被_レ下御世話之儀奉_レ存候、右為_二御答_一早々如此御座候、恐惶謹言、四月八日

須佐浦庄屋 新左衛門
御庄屋
文右衛門様
覚

須佐領百姓
九郎右衛門

【69頁】

右此度歸嶋之御沙汰相成、御送届被_レ下、慥受引申所相違無_二御座_一候、以上、申四月八日

須佐浦庄屋 新左衛門 印
大嶋御庄屋
文右衛門殿

【70頁】

住居替出切送り手形之事、

一、 豎紙
出切手形

濱崎町々人

木下小太郎

右之者儀、此度貴様御支配内池田屋伊三郎方内縁之者一付、為_二仕組之_一引取仕度之段申出候、彼者宗門之儀當町内二而、去春一同一相濟せ、無_二相違_一者一御座候二付、送り手形を以御引渡仕候条、御請取

【71頁】

可_レ被_レ成候、仍而手形如_レ件、

文化五年辰二月

萩濱崎町年寄

長嶺六郎右衛門印

須佐浦御庄屋 六右衛門殿
上包上下折懸ケ
送り手形
木下小太郎

【72頁】

一、身持不_レ宜二付、村退被_二仰付_一書附之事、御届申上候事、大浦

藤右衛門

右彼者儀、内々持方不_レ宜段御聞込之筋有_レ之、此度村退被_二仰付_一、江崎村御庄屋安江藤兵衛存内御百姓喜兵衛儀、藤右衛門親類二而御座候故、彼者方引受

相成申二付、御届申上候条、此辻を以被レ成二御沙汰一可レ被レ下候、以上、

子ノ十一月廿九日

須佐浦庄屋

太郎右衛門 印

大庄屋

木村儀兵衛殿

一筆致二啓上候、然者私共存内大浦ノ

藤右衛門儀、村退被二仰付一候二付、安江

藤兵衛方江引渡仕候様との御事

致二承知一、早速御書出之趣申聞せ、

組合之者相添、安江藤兵衛方引渡

仕候間、此段被二仰上可レ被レ下候、右為二御届一

如レ此御座候、恐惶謹言、

十一月晦日

庄屋

太郎右衛門判

庄屋

津守平左衛門 判

大庄屋

木村儀兵衛様

覚

米屋町々人

波多野善右衛門育

すて

右之者、此度御咎之趣有レ之、川越被二仰付一

須佐浦畔頭左七方江身柄引取候段、

先達而申出有レ之候、今日、彼之者身柄為二

御引渡二御連越相成、慥二受取申候、依而

為二手形一如レ件、

文化六巳ノ十月六日

浦庄屋

何かし

他所病人継送り願出送出之事、

一、通り懸り之無宿ノ旅人病氣之節、其所より届出候ハ、

早速致二見分一醫師等申付、看病人申付、

療用相加可レ申事、御田屋宅早速御届

可二申出事、

一、病人急二快氣可レ仕躰一毛無二御座一、旅用毛

無二御座一、無レ據継送り二致在所へ歸し呉様

願出候ハ、其砌、早速以二飛脚一吉部江

願出候ハ、其砌、早速以二飛脚一吉部江

御伺申上取計可レ仕事、大切之病人

御伺毛不レ仕、無理二送り出候而ハ不調法二

相成候二付、其所得与致二吟味一御届可二申上事、

一、文化五辰八月朔日、石州二隅之道心者、

濱えひす舞殿一而煩付候二付、浦人へ申付

段々致二保養一候所、在所江歸り度段願出

候二付、左之通、

口上覚

小杉二調

拙僧儀、修行一罷出、何月何日、御當所江

通り懸り候所、病氣差起り難儀仕候、右二付

各様方段々被レ附二御氣一御懇一被二成下一候、御醫

師御附被レ成療用被二仰付一候得共、食事等毛

進兼、手足不二相叶一急二快氣可レ仕様一毛

無二御座一候二付、重々御面倒之儀申上兼候得共、

以二御慈悲一継送り二ア、在所江被二差返一

被レ下候ハ、難レ有可レ奉レ存候、此段奉二願上候、以上、

【79頁】

文化五辰八月朔日

石州三隅古市村

嶺光寺旦那又十郎助

同寺弟子

了達 印

須佐浦御庄屋

六右衛門殿

同御年寄

為三郎殿

右僧、往来写豎紙一調、

右之通相調、書状相添吉部大庄屋元へ

以飛脚伺出、御授を受、送り出候事、

送り申病人之事、

【80頁】

小杉豎紙

此僧、石州三隅古市村嶺光寺旦那又十郎助、

同寺弟子了達と申、當年何拾何歳二相成候由、

諸国修行一罷出、當地一而病氣差發り候

一付、療養相加介抱仕候得共、歩行不三相叶、

其上路用銀無レ之旨、継送りニア在所江

送り方仕呉候様ニ相願候一付、其段書付

取候而青駄兼、今何日送り出申候、兼而

從ニ公儀被ニ仰渡一候通、村々宿々

【注】青駄(あんだ)ニ復興(へんよ)。竹で編んだ粗末な駕籠。あじろし。

【81頁】

無レ滞御継送り可レ被レ成候、尤給物等被レ附ニ御氣

可レ被レ下候、右僧了達口上書并所持之物品

付立共ニ相添申候、已上、

年号月日

長門国阿武郡須佐浦

庄屋

【82頁】

道具、豎紙一認継添、

覚

一、木綿

一、浅黄

一、何々

一、何々

古十徳吉

古しゅはん吉

以上

了達 印

月日

右三通、継立候而青駄兼せ、三原江

送り遣入事、青駄八浦二而拵申候、送り

夫八町目代所江申遣差出候事、

【83頁】

一、吉部御届之事、

送り状写、半紙二而も豎紙一写、所持之道具付

相調、尤願書写卜往来之写从先達而差遣入

一筆致ニ啓上一候、先達而得ニ御意一候通、石州

三隅古市村僧了達儀、色々保養相加

候所、少々快方御座候得共、急ニ快氣可仕

病躰一而も無ニ御座、手足不ニ相叶、其上路用も

無ニ御座一候一付、国元江継送りニア差返呉

【84頁】

候様ニ別紙之通願出候一付、銘々立會

之上薬等為レ持候而、継送りニア送り出申候、

右送り状写所持之道具付別紙差出

年寄 六右衛門 印

為三郎 印

同国同郡三原村より石州三隅古市村迄

村々宿々

御役人衆中様

右送り状江病人願書写継立并所持

申候、願書写、往来之写先達而差出
申候、此段御届申上候間、宜様御取計被レ成可レ
被レ下候、恐惶謹言、
月日

浦庄屋

六右衛門 判

大庄屋

安江兵左衛門様

【85頁】

右之通送り出候ハ、早速以_二飛脚_一吉部_二御届
申出候事、尤此飛脚時_二寄萩廻り_一之事、

一、御田屋毛右之段、御届申上候事、

一、旅人、病人路用銀等有_レ之、賃錢雇之
道理を以_二生国江送り方相成候_一ハ、強而御届出_二毛
及申間敷様_二御手子衆より毛氣被_レ附候事有_レ之
候_一ハ、時宜_二寄其心得_一而取計可_レ申事も可_レ有_レ之、事、

【86頁】

他所人當浦_二而病死取計_一之事、

一、吾人旅之者、報謝宿_二而病死_一取計、左之通、
但病氣相重し候_一付、宿之者より直飛脚
を以_二在所江申遣_一、子供参候上_二而病死取計_一申候、
口上覚
私母、有馬為_二湯治_一、六月十一日、筑前福岡出立
仕候所、御當地江去月十六日罷越、一宿之儀
御願申候所、御志_二而御貸被_レ下候_一之由、忝奉_レ存候、
然ル所十七日朝より中器_二御座候_一哉、氣分

【87頁】

不_二相勝_一趣_二付_一、早速御醫師久原義伯殿江
御見_レ被_レ下、服薬用之儀迄段々御世話
被_レ下候所、氣分次第_二重_一り候趣_二付_一、態々

【88頁】

飛脚被_二差越_一、去ル廿四日、福岡江被_レ参候_一付、
即刻より同道仕、御當地江参候而逢對仕候、
醫師中_一毛段々被_レ入_二御念_一被_レ下候得共、養生
不_二相叶_一、今二日昼頃、病死仕候、右_二付遠嶋
之儀_一御座候得_二八御當所_一而身隠し仕度

奉_レ存候、依_レ之墓所之儀御願申上度奉_レ存候間、
御役人中迄貴様より御取成を以、宜様被_二仰上_一
可_レ被_レ下候、奉_レ願候、以上、
丑七月二日

筑前福岡住

万吉 印

彦七殿

右之通被_二願出_一候趣、病中旁少毛相違
無_二御座_一候間、何卒墓所之儀御願申上候、以上、
同日

彦七 印

【89頁】

彦七親類

与七 印

十人頭

市左衛門 印

御畔頭

七右衛門殿

左七殿

右之通願出候間、宜様奉_レ願候、以上、
同日

同日

七右衛門 印

左七 印

御庄屋

六右衛門殿

御年寄
為三郎殿

【90頁】

覺
先月十六日晚、筑前福岡之住女吉人、當浦彦七方江参り一宿之儀相頼候一付、彦七志を以貸候所、十七日朝より病氣一付、宿より醫師久原義伯江見せ、療用相頼服薬致させ候所、氣分相重り候趣一付、彦七より飛脚差遣候へ八早速同道二而御越御逢對之上、養生被二相加一候得共、終不三相叶一、今二日、

【91頁】

被_レ致_二死去候一付、墓所之儀、彦七を以被_二願出_一致_二承知一候、右二付醫師義伯一宿彦七召呼相尋候所、病中より死去之趣、何之相替儀も無_レ之候由一付、墓所之儀差免候間、彦七卜申合、彼者持懸り之墓所へ被_レ致_二葬送一可_レ然と存候、以上、
丑七月二日

長州須佐浦庄屋
吉田六右衛門
同所年寄
大谷為三郎

【92頁】

筑前福岡
万吉殿
右之通二付、往来等見届候上、御土居江相伺可_二申付一事、

【93頁】

當浦漁人難船御届之事、

一、文化元子十月廿七日、當浦市松船、長繩漁二罷出、歸り不_レ申一付御届諸事、
廿八日、江崎御番所江御届書状を以手子衆迄申遣ス

船尋二出_レ候并地下讚談事申上書之通、右船弥相分り不_レ申一付、又々江崎御番所江御届書并容躰書、書状相認手子衆迄、

【94頁】

十月晦日、早飛脚を以申遣、其砌、御番所より萩御用所江御差出之御届書之写、頼遣借り候而御田屋差出、此趣を以御田屋より毛萩へ御届有_レ之事也、

本書小杉豎紙

申上候事、扣半紙豎紙 調也
阿武郡須佐浦私存内浦百姓市松船乗組文蔵・龜松小三郎、以上四人乗二而、十月廿七日暁より長繩漁二沖相江罷出、此外

【95頁】

四人乗之漁船三艘以上四艘、離々漁二罷出候、同日昼時分より風立波高ク相成候所、同日暮時分迄三艘之船無事一而罷歸候、然_レ所右市松船老艘罷歸不_レ申候一付、段々及_二讚談一漁船多人數乗組、追々船差出沖相又_二儀邊相尋候得共、一切相分り不_レ申、陸路者惣郷 尾無し・宇田 木与 奈古 瀬戸崎辺迄追々

【96頁】

尋二入差遣申候、猶又、廿九日八評宜相成候二付、地下船櫓五六挺立三艘、沖相・萩之沖、嶋々迄尋致_二讚談一候様申付差出申候、然_レ所右之船々今晦日朝罷歸り申候、猶、瀬戸崎迄之飛脚、同日暮相一罷歸り申候、浦々讚談仕候得共、相分り不_レ申候、如何様破船仕相果候事与奉_レ存候、右二付別紙容躰付を以御届

【97頁】

申上候間、宜御沙汰被レ成可レ被レ下候、為レ右御注進
如レ此御座候、以上、
子十月晦日

須佐浦庄屋
六右衛門 印

大庄屋

椿弥右衛門殿

本書小杉 扣半紙豎紙

覺

一、漁船

吉艘

但六尋位、吳座帆 檣 楫 櫓 五挺
其外釣道具共二一

【98頁】

浦百姓市松容躰附

中背

吉ツ

吉ツ

吉ツ

吉ツ

吉ツ

吉ツ

吉ツ

同龜松容躰付

中背

吉ツ

吉ツ

吉ツ

同文蔵容躰附

中背

吉ツ

吉ツ

吉ツ

吉ツ

吉ツ

同小三郎容躰附

【99頁】

一、廿九歳

一、何々

一、何々

一、何々

以上

同小三郎容躰附

一、廿七歳

一、何々

一、何々

以上

大背丸赤顔

吉ツ

吉ツ

右阿武郡須佐浦私存内市松船乗組共二一
四人、過ル廿七日曉、長縄漁二沖相籠出一切
歸不レ申、段々讚談仕候得共、船一人柄共二相知

【100頁】

不レ申一付、前書之通容躰付を以御届仕候間、
宜様御沙汰被レ成可レ被レ下候、以上、
子十月晦日

須佐浦庄屋

六右衛門 印

大庄屋

椿儀左衛門殿

右之通ニア吉部全書小杉吉通 扣半紙
吉通、江崎御番所江吉通、御土居舎吉通、

右吉部江書状相認飛脚を以差出入、尤江崎

御番所より之御届吉通、御田屋より御屋敷江之

御届吉通共二一同一差遣入、萩廻り之事、

【101頁】

一、右等之時分江崎御番所より御手子衆當浦へ
被二差出、御詮義有レ之事、

一、其後、船かす相知レ候一付、浦より人差遣受取、
御届申上候事、

一筆致三啓上二候、然者當浦市松船多々浦へ

流寄候分、彼地一而船かす其外共二此方江

御渡方相成、諸事相済申候而、此内差出

申候人夜前罷歸申候、右為二御届一早々如レ此

【102頁】

御座候、恐惶謹言、

十一月十九日

浦庄屋

六右衛門 判

田中嘉内様 江崎御番所手子也
猶以、其御役所より御届被遊候ハ、田屋よりも
同様御届可被申候間、乍早晩御内々御写
御貸被下候様御頼申候様ニ之の御事ニ御座候、
何分宜御頼申候、以上、

右御届状送りニ江崎より参候二付、御田屋
扣を取、送り飛脚ニ而差出入

↑03頁

一、天明三、十一月晦日、當浦与市船舸子小八松原ノ百姓
忠左衛門并助惣次郎萩出船、沖間ニ而破船、船かす
當湊之内流込候一付讚談仕候所、与市船ニ
紛無之、早速江崎御番所江御届申、御手子
被差出御詮義之上吉部御届、例之通三ヶ所
一同ニ吉部より萩廻り飛脚差出入松原ノ
忠左衛門父子八梯賣ニ参候趣御土居申出、三原
存内二付庄屋田村六右衛門引受ニ而御届も連名

↑04頁

一、差出入船かすハ与市親長右衛門引渡申候、

一、明和四年亥正月、當浦茂助船萩より帰候節、
沖ニ而破船、惣郷川尻より尾なし辺油樽・通等
流寄候段、惣郷庄屋藤兵衛より申越候、尤茂助ハ
旧冬三人乗ニ而萩参候所、日和悪敷二付先達而
罷歸候、舸子太郎兵衛与兵衛兩人也、早速人差遣
候所、茂助船一紛無御座一付樽類、船かす等相渡
候二付受取歸り、爰元より早速江崎御番所江

↑05頁

御届申上候得共、惣郷より御届延引二付御番所より御沙汰
有之、藤兵衛被召呼御しかり有之、以来ケ様之儀
御座候節早速御届申上、御手子衆ニ而も被参
御改有之上、船かす、荷物等受取渡可仕筈之

事也、以来心得之為記置也、右二付、七日、
手子衆惣郷江被差出、船諸道具茂助受取
ノリ仕置候段、墨付別紙差出申候、
右上り候油樽等油屋中間拵物ニ相渡、

↑06頁

八 五拾目油屋中より差出入茂助より八
ト差出入ノ五拾七匁、此内酒式升、肴折
惣郷御庄屋へ遣入其外少々入目謝禮
ノ三拾七匁、差引残り式拾目餘り之分、荷主
中割合ニ、拾匁二付三分壹厘宛算用
ニ夫々江相渡、荷主拾壹人、茂助荷物
六拾八匁六分、同人船百五拾目ノ積ニ、錢高
六百三拾七匁三分壹厘割付申候、

七匁板代

↑07頁

此砌者惣郷ニおひて歩一抔と申事一切無之、
有之候ニ爰元引渡有之候事、

↑08頁

一、文化六巳十二月廿一日、幸助船乗組長三郎・
音平三人ニ而鰯獵一罷出、波風強相成歸り不申
一付、獵船数艘差出尋見候共、相分り不申
一付、其段江崎御番所御手子迄以書状一届、
猶又陸路瀬戸崎迄浦々相尋飛脚
差出入

↑08頁

廿二日晚方、奈古獵人獵船式艘舸子八人ニ而
幸助船ヲ漕来申候趣八廿二日之朝、奈古より
鰯獵二数艘出候所、五里程沖ニ永船一相成
居候、尤幸助長三郎兩人廿一日ニ相果、残り
壹人音平ト申者存命ニ而居候、奈古
船漕付致ニ介抱ノ様子相尋候所、委敷
相分り候一付、沖相より直様當浦漕来り候、
役所全毛相届候二付、早速罷出懸合及

↑109頁

挨拶、音平元氣克委細之儀申一付、死骸宿々相渡、猶又江崎御番所御土居江之御届八不残病人之立利ニ御届申上、尤御番所御手子藤井喜左衛門殿ニ毛被レ参候一付、内々及相談ニ御届書調之、

書状ニ、
一筆致ニ啓上候、然者先達而御届申上候
幸助船、只今奈古浦漁人共漕来り、
船人無難ニ罷歸り申候、尤少々病人も

↑110頁

御座候得共、未格別之儀も無之候間、此段宜様被ニ仰上ニ可レ被レ下候、右為ニ御届ニ如レ此御座候、
恐惶謹言、

十二月廿二日

浦庄屋

六右衛門 判

御手子

藤井喜左衛門様

右之通ニ相濟申候、御田屋ニ毛同断、奈古之獵人ニ毛右之参り懸り及相談ニ取計申候事ニ御座候、猶夫よりしけニ相成候一付、奈古之船も

↑111頁

當浦滞船、早速宿を申付、拾人頭ノ者申付、日々賄并酒肴差出申候、然ル所打續日和悪敷ニ付、右人数追々ニ陸路通り奈古へ歸り申候、船八廿六日、漸奈古より参り乘歸り申候、廿七日、右之為レ禮浦より人差遣、庄屋元ニ毛相應之書状相調酒肴 遣之、

一、肴代札銀
一、同 同

漕送り之式艘之人数へ
其節出會之獵船
数艘人数へ

↑112頁

右之通ニ取計ひ相濟申候、近年、浦より濱田へ獵船参り、歸り難船ニ而式人共ニ死去致候共、宇田舎、船人共ニ相知レ様子相分り候事ニ候間、其節も病人之取計ひニ相濟、御届出吉部ニ不仕候、以来ニ而も死骸等相知レ不申候、又何そ趣も有之、病人之立利ニ毛不ニ相成ニ時八吉部ニ毛早速御届可ニ申出ニ事也、江崎ニ八小事たりとも相届、猶手子衆ニ毛及ニ相談、

↑113頁

猶又御土居ニ毛早速内々ニ而も申出、手ぬかり無之様取計ひ可レ申事肝要也、

↑114頁

浦出火烧失届之事、

一、明和五子六月十四日、浦出火有之、届左之通、

申上候事、

一、家数百貳拾五軒

内

貳拾軒

但旦那家来衆居宅之分

百五軒

但百姓家之分

右者私共存内須佐浦町百姓家より昨夜五ツ半時より出火ニ而、家来衆居宅并百姓家

↑115頁

共々前書之通焼失、竈数八百七拾五竈、尤人柄別条無ニ御座、牛馬等八所持不仕、寺社并蔵焼失無ニ御座、委細之趣萩屋敷より御届可レ被ニ申出ニ候得共、私共よりも御注進如此御座候条、此辻を以宜様御沙汰被レ成可レ被レ下候、以上、

子六月十四日

須佐浦庄屋

太郎右衛門

同村給庄屋

津守平左衛門

大庄屋

原貞右衛門殿

右之通^二以^三飛脚^一吉部合相届^ル

【116頁】

【117頁】

鍋釜入津被^三差留^一候事、

一、寛政年中、庄屋岡右衛門役中、

以^三廻状^一申入候、然者當郡入用之鍋釜

類之儀^八先年以來、須佐釜屋見明

太郎右衛門賣拂仕来、他国之鍋釜一切

入津被^三差留^一来候間、向後之儀茂

弥以前書之通入津水揚不^レ仕様、

存内々々手堅可有^三沙汰^一候、為^レ右如此候、以上、

【118頁】

十二月四日

高橋三郎兵衛

御庄屋

安江善五郎殿

小都合庄屋

同 大谷源蔵殿

岡右衛門殿

茂刈万左衛門殿

金子孫三殿

与兵衛殿

【119頁】

絞り油 向受賣之者付出事、

一、文化十一戌正月、絞り油屋軒数 向請賣之者 / 付出仕候様^二御沙汰相成、早速御土居^七申出候而、 / 左之通付出入

申上候事、

一、油^ノ木^七吉面

同 吉面

濱崎屋武平

魚屋佐七

但右之者共於^レ尔^レ時少々宛、からせ / 木之実之類^ノ申候、

右者油^ノ木所持之者并請賣之者

【120頁】

讚談仕候所、右之通^二御座候間、此辻を以宜様

御沙汰被^レ成可^レ被^レ下候、以上、

戌正月廿二日

須佐浦庄屋

吉田長兵衛 判

大庄屋 伊藤与平治殿

右之通^二書状相添差出候、三原田村平八より者

油請賣石川屋源右衛門、松原屋長左衛門於^レ尔^レ時木の実油・

魚油之類受賣仕候段、同様之書付^二差出候、野頭

二^ノ右之商人無^レ之段申出相成候也、

【121頁】

(蔵田弥平次判物)

一、繰綿^七吉本 覚

但掛目正実六貫目入

右御宰判奥阿武郡於^二須佐

浦^一持運候者、先月廿九日、

津留打廻り之者見咎、

通り符所持不^レ仕^一符

様子相調^二候所、荷主

逃去行衛不^二相知^一、

拔物相違無^レ之^一符

【122頁】

申出候分、新蔵櫓方へ

取揚、同所庄屋吉田
源左衛門と申者江預ケ置候段
送り出し被_レ仰付_二候条、早々
可_レ成_二御沙汰_一候、已上、

十二月五日

李家惣兵衛様

長屋藤衛

高橋七衛

右之通可_レ有_二御沙汰_一候、已上、

↑23頁

同日

李家 惣兵衛

天野八左衛門殿

右之通御沙汰相成候条
可_レ有_二其御沙汰_一候、已上、

十二月十日

蔵田 弥平次 印

吉田 源左衛門様

【完】